

体 育

1 学習指導及び学習評価の改善・充実


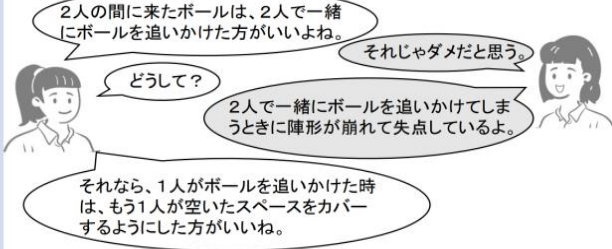
(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

平成 30 年 3 月に現行の学習指導要領が告示され、今年度で実施 4 年目になったところであるが、昨年 12 月 25 日に公表された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（中央教育審議会）において、現在、学校現場で顕在化している課題について、次のとおり示された。

【顕在化している課題】（一部抜粋）

- ・ 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が多くなっている。
- ・ 現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばである。

こうした課題を踏まえ、専門学科「体育」における生徒の主体的な学びを実現する学習指導の在り方の工夫について、前項の「保健体育」を例として、次のとおり示す。

	①生徒が興味・関心をもつ学習課題の工夫	②生徒が学びを振り返り、次の学習に生かす学習過程の工夫						
運動	陸上競技（短距離走・リレー）	球技（ネット型：バレーボール）						
工夫内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が運動の楽しさや喜びに触れることができるようにルールや運動の場の工夫をする。 ・ 課題の解決の仕方がイメージできるように活動の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間とともに学習活動を振り返り、課題解決に向けた解決策を話す場面を設定する。 ・ ペアを組んだ仲間の課題や仲間へのアドバイス、その理由などを学習カードに整理する。 						
実践方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【リレーの楽しさ】</p>  <p>何人がかでチームを組み、一定の距離を一人一人が全力で走りながらバトンをつなぐことが楽しい。</p> <p style="font-size: small;">一層楽しくするために</p> <p>【工夫例】 作戦やルールを工夫しながら、相手チームと競走するともっと楽しい。</p> <p>【工夫例】 走り方やバトンの渡し方をみんなで工夫しながら、自分たちのチームの記録に挑戦するともっと楽しい。</p> </div> <p>課題の解決に向けて、自分（チーム）の課題を明確にもてるよう、ICT機器等を活用します。（動画等を活用し、よい動きを参考にする）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留意点として、一人の生徒が走る距離は、50m～100m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度、グラウンドの大きさに応じて弾力的に工夫する。 ・ 生徒が運動の楽しさや喜びに触れることができるようスターターや時計、記録など運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などを工夫する。 <p style="font-size: x-small;">（参考：「陸上運動について～短距離走・リレー」文部科学省）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>2人の間に来たボールは、2人で一緒にボールを追いかけた方がいいよね。</p> <p>それじゃダメだと思う。</p> <p>どうして？</p> <p>2人で一緒にボールを追いかけてしまいうときに陣形が崩れて失点しているよ。</p> <p>それなら、1人がボールを追いかけた時は、もう1人が空いたスペースをカバーするようにした方がいいね。</p> </div> <p><学習カードの例></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">ペアを組んだ仲間の課題</th> <th style="width: 30%;">仲間へのアドバイス</th> <th style="width: 40%;">アドバイスを考えた根拠や理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>（記述例） サービスが安定して入らない</td> <td>（記述例） トスを高く上げるとよい</td> <td>（記述例） トスが低いので、打点が低くなりネットにかかっていると聞いた。トスを高くすれば高い打点でサービスを打つことができる。</td> </tr> </tbody> </table>	ペアを組んだ仲間の課題	仲間へのアドバイス	アドバイスを考えた根拠や理由	（記述例） サービスが安定して入らない	（記述例） トスを高く上げるとよい	（記述例） トスが低いので、打点が低くなりネットにかかっていると聞いた。トスを高くすれば高い打点でサービスを打つことができる。
ペアを組んだ仲間の課題	仲間へのアドバイス	アドバイスを考えた根拠や理由						
（記述例） サービスが安定して入らない	（記述例） トスを高く上げるとよい	（記述例） トスが低いので、打点が低くなりネットにかかっていると聞いた。トスを高くすれば高い打点でサービスを打つことができる。						

専門学科「体育」の授業づくりにおいて、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、指導方法を工夫して必要な知識及び技能を指導しながら、生徒たちの思考を深めるために発言や意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を工夫し、必要な学習環境を積極的に整備していくことが大切である。その際、目標で示された「見方・考え方」の捉え方を踏まえ、各運動領域の特性や魅力に応じた、体を動かす楽しさや特性に触れる喜びを味わうことができるよう、また、健康の大切さを実感することができるよう、指導方法を工夫することが大切である。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

専門学科「体育」では、豊かなスポーツライフを継続することを重視し、従前より「態

度」を内容として示していることから、他教科とは異なり、学習指導要領の内容のまゝに「学びに向かう力、人間性等」の指導事項が示されている。なお、愛好的態度及び健康・安全は、各領域において共通の指導事項となっている。学習指導要領解説には、各領域で取り上げることが効果的かつ具体的な指導事項として、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生が、重点化して示されていることに留意することが大切である。

次の表1は、入学年次の次の年次以降における男女共習で実施する球技「ネット型：バレーボール」において、「学びに向かう力、人間性等」に示された「一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事（共生）」の指導を行う際に、関連した指導内容である「競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあること（知識）」と「体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けること（思考力、判断力、表現力等）」について、指導と評価の充実を図った例である。

時間	学習活動等	評価の観点	評価方法
1	オリエンテーション（指導の重点と評価の説明）		
2～5	学び直し(入学年次にネット型(バレーボール)を選択している生徒と高等学校入学以降初めて選択する生徒が混在しているため、教師が生徒の実態を把握することや、学習状況を可能な範囲でそろえることを目的としている。)		
5	競技会の実施(ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあること(知識)を指導)	知識・技能	学習カード
6～7	簡易化したゲームの実施(全員が楽しむためのルール等の調整の仕方等について学習した知識を活用する場面を設定)	知識・技能	学習カード
8	一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事(共生)の指導		
9～14	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けること(思考力、判断力、表現力等)を指導	知識・技能 思考力・判断力・ 表現力等	学習カード
15	まとめ・振り返り(授業において自分が「心がけたこと」を学習カードに記載させ、共生の意義や価値と行動の仕方の記載状況についても判断の目安に加味し、総合的に評価する。) ※「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、態度の育成等に一定の学習期間が必要となることから、8時間目の指導後に一定の学習期間及び評価期間を設け、共生の評価の機会を15時間目に設定している。	主体的に学習に 取り組む態度	学習カード

表1 単元の指導と評価計画(15時間)

上記表1では、本単元において重点である「学びに向かう力、人間性等」の指導事項「共生」について、指導内容等(表2)と目標を実現した生徒の姿(表3)を整理し、単元の指導に入る前に、指導に当たる教員間で共通理解を図っている。評価を行う上で重要なことは、このように担当教員間で目指す生徒の姿を共有することである。

表2は、「学びに向かう力、人間性等」(共生)について、具体的な知識と汎用的な知識の観点で整理し、どのような生徒の姿を目指すのか(○指導のキーワード、■想定される学びの姿の例)を明確にすることで学習評価の信頼性、妥当性を確保している。

表3は、表2の「指導内容」である「一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている」状況であるかどうかの判断の目安として、「行動の仕方のキーワード」

と「想定される様相」を明確にし、担当教員間で合意した上で、授業において最終的に観察によって評価を行っている。

学びに向かう力、人間性等	指導内容	解説表記		○指導のキーワード ■想定される学びの姿の例
		具体的な知識	汎用的な知識	
共生	一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。	体力や技能の程度、性別や障がいの有無等に応じて、チームや自己の状況に合った実現可能な課題の設定や挑戦及び練習の仕方やルールを修正などを大切にしようとする。	一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。スポーツに参加しやすい環境をつくることにつながるとともに、スポーツを通じた共生社会の実現につながる。	○実現可能な課題の設定や挑戦、練習の仕方やルールの修正を大切にする ■自他との関わりの中で、違いを可能性として捉え、個々の違いに配慮しようとしている姿

表2 入学年次の次の年次以降の球技における「学びに向かう力、人間性等」(共生)の指導内容等の整理

(国立教育研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」)

実現状況	行動の仕方のキーワード	想定される様相
「十分満足できる」状況 (A)	※定着している	<ul style="list-style-type: none"> ・共生の意義や価値及び行動の仕方を理解し、個々の違いへの配慮や、可能な限り実現可能なプレイを行うなど、単元を通して共生の視点での発言や働きかけが安定してみられる。 ・ミスした時やうまくできなかった時に、一人一人の違いを踏まえて、自己や他者への建設的な発言や働きかけがみられる。 ・共生の意義及び自身の行動の仕方に対しての具体的な記述が確認され、体力や技能の程度、性別などに関わらず気遣いがみられる。
	※建設的に考えようとしている、気遣おうとしている	
「おおむね満足できる」状況 (B) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている	※知識を規範に行動しようとする、受け入れようとする、思いを統制しようとする	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能な課題の設定や挑戦を大切にしようとする大切さを理解し、他者との違いを受け入れている様子が確認される。 ・仕方なくという場面も見られるが、理解したことを基に互いのプレイの違いを受け入れている。 ・教師の手立てや自身の振り返りや他のグループとの意見交換などから、単元終盤では、互いの違いに配慮し思いを統制するなどして取り組む様子がみられる。
「努力を要する」状況 (C)	※逃避しようとする、敬遠しようとする、無視する、あきらめる	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の立場や状況への配慮がなく、自己のプレイに固執し、修正したルールを無視しようとする様子がみられる。 ・一人一人の違いが生じている状況でも、関わりを遠ざけたり、あきらめたりするなど、消極的な姿勢が教師の働きかけの後もみられる。 ・共生への理解が生かされず、他者のプレイを排除したり嫌悪したりする言動や行為がみられる。 ・教師が働きかけを行っても、他者の意欲を低下させる否定や批判などの発言や行動が継続する。
	※排除しようとする、嫌悪する、否定する、批判する	

表3 「一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている」の実現状況を判断する目安

(国立教育研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」)

2 指導と評価の計画例

(1) 科目「スポーツ概論」

ア 科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向

けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (ア) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。
- (イ) スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (ウ) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

イ 指導項目「スポーツの効果的な学習の仕方」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること、過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること、技術の種類に応じた学習の仕方があること、現代のスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>③運動やスポーツの技能の上達過程には幾つかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること、これらの獲得には、一定の期間がかかることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>④運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>①運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝えている。</p>	<p>①運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

ウ 指導項目「スポーツの効果的な学習の仕方」の指導と評価の計画（12時間）

次【時間】	ねらい、学習活動等	重点記録	備考 (評価Bの規準)	
1 【2時間】	運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害	<p>【1時間目】事例研究（ペアワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校時の自己と現在の自己を比べて、できなかったことができるようになった事例を挙げる（技術と体力の関連）。 ・それぞれの運動やスポーツで、必要とされる技能と体力の例を挙げる。 <p>【2時間目】事例研究（ペアワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の専門種目の動きの局面に対応して期待される体力要素を分析し、その高め方を検討する。 ・各種目における長期的な酷使による障害等の事例とその予防プログラムを検討する。 	<p>知①</p> <p>思①</p>	<p>運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること、過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることについて、学習した具体例を挙げている。</p>
	2 【2時間】	スポーツの技術と技能及びその変化	<p>【3時間目】調べ学習（個人・グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の専門種目について、技術の名称と内容を確認する。 ・オープンスキル型技能とクローズドスキル型技能に分類し、種目に応じた高め方を検討する。 <p>【4時間目】ディスカッション（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目における技術や戦術、ルールの変遷について、用具の改良やメディアの発達に着目してまとめ、グループで共有する。 ・オープンスキル型技能とクローズドスキル型技能の種目に応じた高め方や技術の変化に影響を及ぼす外的要因についてディスカッションする。 	<p>知②</p> <p>思①</p>
3 【2時間】		運動やスポーツの技能の上達過程	<p>【5時間目】発表・まとめ（個人・グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の専門種目の技能を取り上げ、その上達過程を段階ごとに整理し、ワークシートにまとめる。 	<p>知③</p>

これまでの経験を振り返ることで、自己課題を明確にし、運動実践の改善につながる主体的な学習となるよう見通しをもたせる。

		<ul style="list-style-type: none"> 技能を上達させるための、効果的な練習方法について提案する。 			に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること、これらの獲得には、一定の期間がかかることについて、言ったり書き出したりしている。
		<ul style="list-style-type: none"> 【6時間目】 ケース・スタディ（ペアワーク） ペアで各自の専門種目の課題となる運動局面について事例を挙げ、ICT等を活用して他者観察の視点から運動解析を行う。 各自の課題となる運動局面について、その改善に向けた効果的な練習方法を提案する。 	思①		
		<ul style="list-style-type: none"> 【7時間目】 まとめ・インタビュー（グループワーク） 各自の専門種目に分かれて、習得した知識を活用し、スポーツの効果的な学習の仕方について、課題や解決策をまとめる。 体育科教員へのインタビューを実施し、課題解決の参考にする。 	思①		運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝えている。
4 【2時間】	まとめ①	<ul style="list-style-type: none"> 【8時間目】 発表・まとめ（個人ワーク） 前時までの学習のまとめを各自発表し、全体で共有する。 他者の発表の内容を踏まえ、自分の取組の改善点やこれからの実践に取り入れたい要素について、ワークシートにまとめる。 	思①	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 【9時間目】 事例研究（グループワーク） 自己の身近で起きた「運動によるけが」の事例を挙げ、グループで共有する。 事例として挙げられたけがの原因や予防・対処方法についてグループで意見交換する。 	知④	○	運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることについて、言ったり書き出したりしている。
		<ul style="list-style-type: none"> 【10時間目】 事例研究（グループワーク） 前時の学習をもとに、将来のスポーツ大会の企画や運営に関わる際のマニュアル作成又は事故事例の分析のどちらかをグループで選択して取り組む。 生成AIで作成したマニュアル又は事故事例の分析と比較し、不十分な事項について確認した上で、内容のブラッシュアップと危機対応力の向上を図る。 	思① 態①		生成AIを活用し、自らの学習の成果を検証し、不十分な部分を補完させる。
		<ul style="list-style-type: none"> 【11時間目】 まとめ・発表（個人・グループワーク） 作成したマニュアル又は事故事例の分析をグループごとに発表する。 これまでの学びを振り返り、スポーツの効果的な学習の仕方について、レポートにまとめる。 	思①		運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組んでいる。
6 【2時間】	まとめ②	<ul style="list-style-type: none"> 【12時間目】 まとめ・発表（個人・グループワーク） 前時に引き続き、レポートを作成する。 作成したレポートについて、ICT等を活用して共有し、各自概要を発表する。 	態①	○	

ICT等を活用して運動解析を行うことで、客観的な情報をもとに課題の分析ができるようにする。

グループごとに課題を選択し、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫する。

[10時間目：生成AIの活用例]

○ 生成AIで作成したマニュアル例との比較

自らが作成したスポーツ大会の企画や運営に関わる際のマニュアルと、生成AIで作成したマニュアル例を比較し、事故防止や安全管理の側面から不十分な事項を確認するとともに、必要事項を補完するなどして、マニュアルの改善を図る。

○ 生成AIによる内容の精査

自らが作成したマニュアルを生成AIにアップロードし、事故防止や安全管理の観点から不十分な事項についてチェックするようプロンプト（指示文）を与え、生成AIの指摘を踏まえて、内容のブラッシュアップを図る。

スポーツ大会運営マニュアル〈生成AI作成例〉	
1. 大会概要 大会名：第〇〇〇〇高校スポーツフェスティバル 開催日：令和〇年〇月〇日（〇曜日） 開催場所：〇〇高校グラウンド/体育館 参加対象：全校生徒（学年別/クラス対抗）	
2. 大会の目的 ● 生徒の体力向上とチームワークの育成 ● フェアプレー精神の醸成 ● 安全で楽しいスポーツ体験の提供	
3. 競技種目と安全配慮	
種目	安全配慮
100m走	スタート地点の整地、スパイク禁止
ドッジボール	体育館使用、床の滑り止め確認
障害物リレー	器具の固定、安全な配置
4. 事故防止チェックリスト（事前準備） □ 競技場の整地・高検（穴・段差・滑りやすい箇所） □ 器具の安全確認（破損・不安定なもの排除） □ 熱中症対策（水分補給所/日陰スペースの設置） □ 応急処置セットの準備（保健室連携） □ 生徒の健康状態確認（事前アンケート・申告）	
5. 当日の安全管理体制 ● 安全管理班の役割 ● 開始前の検閲・食糧チェック ● 競技中の巡回と危険行為の注意 ● けが人発生時の初期対応と報告 ● 応急処置の対応 ● けが発生 → 近くの班員が対応 ● 安全管理班へ連絡 ● 保健室へ搬送・教員へ報告 ● 保護者連絡（必要に応じて）	
6. 生徒への事前指導項目 ● ウォーミングアップ・クールダウンの重要性 ● 危険行為（押す・ぶつける・無理な動き）の禁止 ● 自分の体調に応じた参加判断（無理をしない） ● けが人を見かけたらすぐに報告すること	
7. タイムスケジュール（安全配慮付き）	
時間	内容
8:30	開会式
9:00	事前の競技開始
12:00	昼食・休憩
13:00	午後の競技開始
15:30	閉会式・表彰
16:00	片付け・解散
8. 振り返りと改善 ● 大会後にアンケート実施（Google フォームなど） ● 良い点・改善点の共有 ● 次年度への提案書作成	

【例】生成AIで作成したスポーツ大会運営マニュアル例